

平坦地夏どりホウレンソウの適品種・生産安定技術

県農業試験場園芸支場 そ菜部(現、農業研究センター農産園芸研究所野菜部)

研究のねらい

夏どりホウレンソウは、需要が多く、栽培期間が約1カ月と短期間であるため、平坦地で果菜類との輪作や周年供給栽培の一貫として導入が考えられるが、栽培がきわめて不安定である。

そこで、作型、適品種を選定し、併せて生産安定を図る技術を検討した。

研究の成果

1. 適品種選定

- (1) 熊本県における5月中旬～6月上旬の播種は、温度がそれほど高くないため有利な作型と考える。この時期の品種としては、「ビーナス1号」ついで「ファンファーレ」が有望である。
- (2) 高温期でやや栽培が困難な6月下旬～7月上旬播種には、「リード」が有望である。
- (3) 7月中旬～8月上旬播種については、高温のため雨よけ栽培だけでは困難であり、何等かの方法で降温を図る必要がある。

2. 降温対策

- (1) 品質向上及び増収のためには、6月中旬～8月下旬播種の作型ではグリーンソーラ等の熱交換機を用いた降温効果の利用が有利である。
- (2) 経済性については、グリーンソーラでの1作に費やす推定電気量は861kw、ヒートポンプでは1,439kwとなり、グリーンソーラについては暖房用と併用すれば減価償却を含め採算が合うと考えられる。
- (3) グリーンソーラの使い方については、地下水を熱交換しダクトによって作物頭上から冷却風を吹き付けるようにする。

3. 被覆資材

紫外線域除去フィルムが優れている。

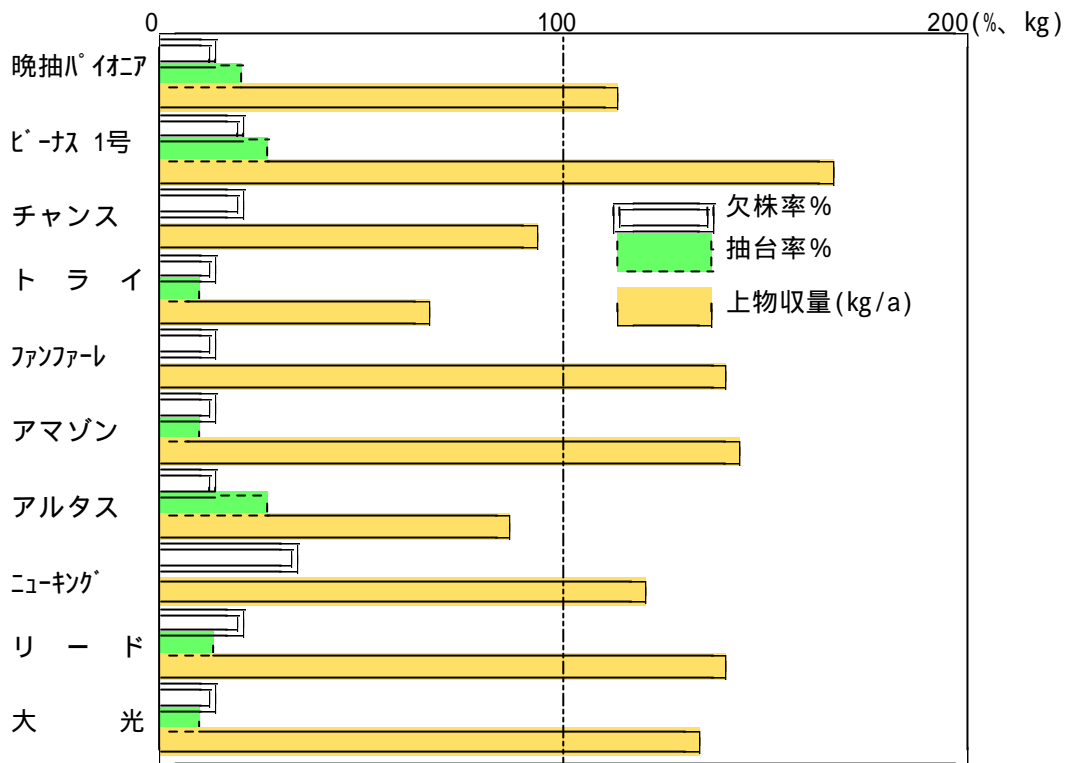


図1 品種比較(6月21日播種)

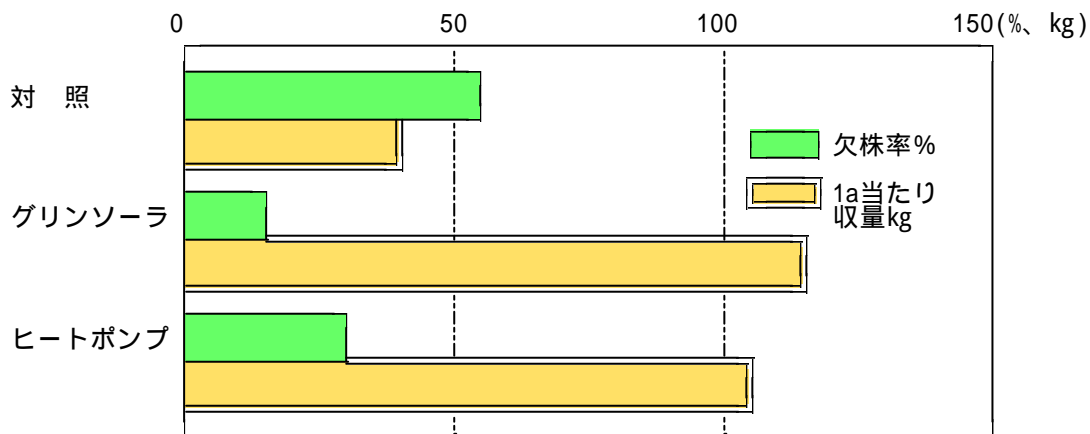


図2 降温効果(7月17日播種) 供試品種 晩抽バイオニア

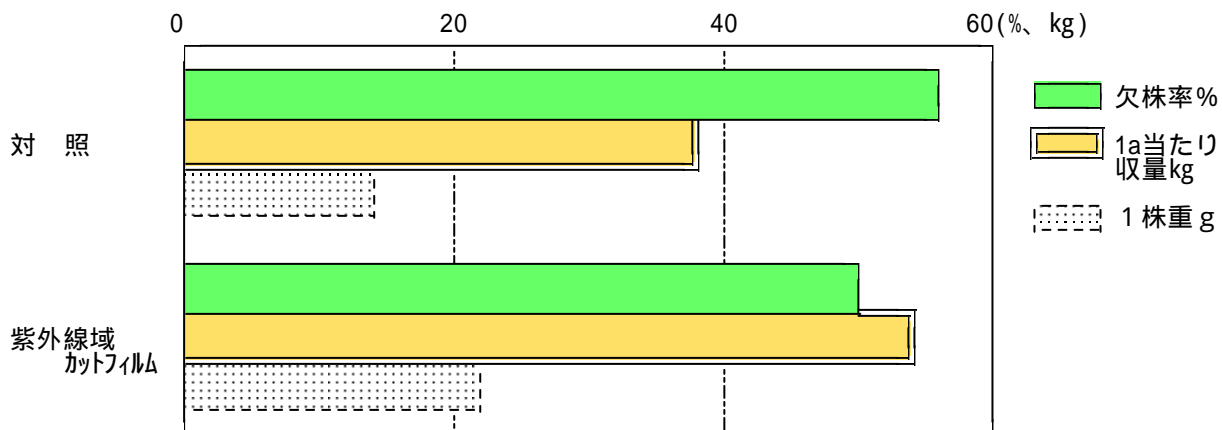


図3 被覆資材(7月17日播種) 供試品種 晩抽バイオニア